

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問 1 医薬品の本質に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品は、人の疾病の診断、治療、予防に使用される。
- b 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡るが、必ずしも期待される有益な効果のみをもたらすとは限らない。
- c 尿糖・尿蛋白検査薬や妊娠検査薬は人体に対して使用されないので医薬品ではない。
- d 医薬品は、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	正	誤

問2 医薬品の本質に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。なお、2ヶ所の(a)内は、同一の字句が入ります。

(a)は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものであるが、購入者においては、(b)や製品表示に記載された内容をみただけでは、効能、効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることがある。購入者が、(a)を適切に選択し、適正に使用するためには、その販売に専門家が関与し、適切な(c)を行う必要がある。

下欄	a	b	c
1	医療用医薬品	宣伝文書	情報提供
2	医療用医薬品	添付文書	試供品提供
3	一般用医薬品	添付文書	情報提供
4	一般用医薬品	宣伝文書	試供品提供
5	一般用医薬品	添付文書	試供品提供

問3 医薬品の本質に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されているので、製造販売業者による製品回収等の措置がなされることはない。
- 2 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績調査等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっている。
- 3 医薬品は、知見の積み重ねにより情報が集積され、新たな情報が付加されるので、医薬品の販売に従事する専門家は、常に新しい情報の把握に努める必要がある。
- 4 医薬品は、必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものであり、情報を伴わなければ、単なる薬物に過ぎない。

問4 医薬品の副作用に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。なお、2ヶ所の(a)内は、同一の字句が入ります。

我が国では医薬品の副作用を「(a)が適正な使用目的に従い適正に使用された場合においてもその(a)により人に発現する(b)な反応」(独立行政法人医薬品医療機器総合機構法第4条第6項)と定義している。

下欄	a	b
1	新医薬品	有害
2	新医薬品	重篤
3	許可医薬品	有害
4	許可医薬品	重篤
5	一般用医薬品	重篤

問5 次の医薬品成分とその副作用の組み合わせについて、誤っているものを1つ選びなさい。

1	塩化リゾチーム	_____	皮膚粘膜眼症候群
2	リン酸ジヒドロコデイン	_____	下痢
3	臭化ブチルスコポラミン	_____	眠気
4	ブフェキサマク	_____	接触皮膚炎
5	ソファルコン	_____	肝機能障害

問6 医薬品の本質に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 薬物が生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。通常、医薬品は複数の薬理作用を併せ持つことはない。
- b 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、その疾病に対して薬効をもたらす一方、別の疾病に対しては症状を悪化させることはない。
- c 一般用医薬品は適切に使用すれば、医療用医薬品に比較して副作用のリスクは相対的に低いと考えられる。
- d 一般用医薬品を使用し、副作用の兆候が現れた場合は、基本的には使用を中止し、必要に応じて医師、薬剤師などに相談すること。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問7 アレルギーに関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合、アレルギーを生じることがある。
- 2 鶏卵や牛乳にアレルギーのある人でも、医薬品の原材料として鶏卵や牛乳が使われている場合は注意する必要はない。
- 3 アレルギーは、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得るものである。
- 4 アレルギー症状は結膜炎症状、鼻炎症状、蕁麻疹や湿疹、皮膚症状、血管性浮腫のようなやや広い範囲にわたる腫れ等が生じることが多い。

問 8 アレルゲンとなりえる医薬品の添加物として知られているものの正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ピロ硫酸カリウム
- b 塩酸チアミン
- c カゼイン
- d 塩化ナトリウム

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 9 次の医薬品について、習慣性・依存性のおそれがあるものを「正」、ないものを「誤」として、正誤の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a リン酸ジメモルファン
- b マオウ
- c 塩酸ノスカピン
- d カフェイン

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	正

問10 一般用医薬品の使用に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 一般用医薬品を服用して症状を緩和すれば、生活習慣の改善をしなくても、服用を続けていれば健康にはよい。
- 2 症状を早く改善させるには、薬は多く飲むほうがよく効く。
- 3 薬を飲み忘れたら、次に飲むときに忘れた分も含め2回分飲んだほうがよい。
- 4 医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。

問 11 一般用医薬品の相互作用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 相互作用のリスクを低減するためには、緩和を図りたい症状に合った成分のみが含まれた医薬品を選択することが望ましい。
- b 複数の疾病を有する人では、医療用医薬品と一般用医薬品とを併用しても相互作用が起きることはない。
- c 医薬品の相互作用は、吸収、代謝、分布又は排泄の過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- d 漢方薬は作用が穏やかなので、症状にあわせて2種類までは併用しても相互作用が起きることはない。

下欄

- 1 (a 、 b) 2 (a 、 c) 3 (b 、 d) 4 (c 、 d)

問 12 一般用医薬品と食品の相互作用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a カフェインを含むかぜ薬とコーヒーを一緒に服用すると、カフェインの過剰摂取になることもある。
- b アルコールは主として肝臓で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく飲む者は代謝機能が低下していることが多く、アセトアミノフェンなどは十分な効果が得られないことがある。
- c 一般用医薬品と食品との相互作用は、専ら飲み薬（内服薬）の使用に際して注意を要する。
- d 生薬成分含有の食品で医薬品的な効能効果が標榜されていなければ、医薬品との相互作用は起こらない。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 13 次の医薬品の使用上の注意等における年齢区分について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 乳児 _____ 1 歳未満
- b 幼児 _____ 6 歳未満
- c 小児 _____ 1 5 歳未満
- d 高齢者 _____ 7 0 歳以上

下欄

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問 14 小児への医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを選びなさい。

- a 乳児向けの用法用量が設定されている一般用医薬品は、成人と同じように長期に連用させることに問題はない。
- b 小児は吸収された医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- c 錠剤やカプセル剤等は、小児、特に乳児にそのまま飲み下させることが難しいことが多く、6歳未満の幼児に使用される医薬品では、服用時に喉につかえやすいので注意をするよう添付文書に記載されている。
- d 一般に乳幼児は、容態が変化した場合に、自分の体調を適切に伝えることが難しいため、医薬品を使用した後は、保護者等が乳幼児の状態をよく観察することが重要である。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

問 15 高齢者への医薬品の使用に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、肝臓や腎臓の機能が低下していると、薬理作用が強く現れやすい。
- 2 一般用医薬品の用法用量は、ある程度の個人差は見込んでいるので高齢者についても、基本的には定められた用量の範囲内で使用されることが望ましい。
- 3 高齢者は基礎疾患を抱えていることが多いが、一般用医薬品の使用によって、基礎疾患の症状が悪化することはない。
- 4 高齢者は嚥下障害があることがあり、抗コリン作用を持つ医薬品の服用により口渇がでた場合、誤嚥を誘発しやすくなる。

問 16 妊婦及び授乳婦等への医薬品の使用に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品によっては、体に吸収された医薬品の成分の一部が乳汁中に移行し乳児に影響を及ぼすことが知られている。授乳婦に対して積極的な情報提供が必要である。
- 2 一般用医薬品は、妊婦が使用した場合の安全性に関する評価は定まっているので、副作用がなく使用しやすい。
- 3 妊娠3ヶ月以内の妊婦、妊娠していると思われる女性及び妊娠を希望する女性では、医薬品以外からの摂取を含め、ビタミンAの過剰摂取に留意する必要がある。
- 4 加香ヒマシ油が配合された医薬品では、腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがある。

問17 医薬品に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品を使用したとき、薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。プラセボ効果によってもたらされる反応には、不都合なものはない。
- b 医薬品は高い品質が保証されていなければならないので、温度、湿度、紫外線等によって品質の劣化がないように保管・陳列する必要がある。
- c 医薬品に表示されている「使用期限」は、開封、又は未開封に関係なく、記載されている期限まで品質が保証されている。
- d 医薬品は、適切な保管・陳列がなされていても、経時変化による品質の劣化は避けられない。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 18 一般用医薬品の選択に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品の役割として、①軽度な疾病に伴う症状の改善、②生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防等があり、生活者が自らの疾病の診断、治療又は予防等を図ることを目的としている。
- b 一般用医薬品は長期間服用して効果がでることが多いので、症状が改善しなくても服用を続けることが重要である。
- c 一般生活者は一般用医薬品に対してセルフメディケーションの観点から効果を期待しているので、専門家が副作用を積極的に説明する必要はない。
- d 一般用医薬品は家庭における常備薬として購入されることも多いので、使用期限から十分な余裕をもって販売されることが重要である。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 19 サリドマイド製剤の薬害に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

(a) 等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生した。妊娠している女性が摂取した場合、サリドマイドは(b)を通過して胎児に移行する。サリドマイドは副作用として(c)を妨げる作用があるため細胞分裂が正常に行われず、器官が十分に成長しないことから先天異常が発生する。

下欄

	a	b	c
1	催眠鎮静剤	血液脳関門	細胞新生
2	催眠鎮静剤	胎盤関門	血管新生
3	催眠鎮静剤	胎盤関門	細胞新生
4	解熱鎮痛剤	血液脳関門	血管新生
5	解熱鎮痛剤	胎盤関門	細胞新生

問 20 薬害に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から
選びなさい。

- a HIV訴訟の和解を踏まえ、国は、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染者に対する恒久対策として、エイズ治療研究開発センター及び拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の取組みを推進してきている。
- b キノホルム製剤については、一般用医薬品として販売されたものはないが、一般用医薬品の販売に従事する登録販売者としては、薬害事件の歴史を十分に理解し、副作用報告等を通じて、その責任の一端を担っていることを認識しなければならない。
- c クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）は、細菌でもウイルスでもないプリオンが原因とされ、脳外科手術等に用いられていたウシ乾燥硬膜を介してCJDに罹患したこととして訴訟が起きた。
- d CJD訴訟の和解を受け、製薬企業に対し、従来の医薬品の副作用報告に加えて感染症報告が義務付けられた。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	正	正

主な医薬品とその作用

問21 かぜ薬の配合成分と配合目的の正しいものの組み合わせを下欄から
選びなさい。

- | | | | |
|---|-------------|---|-------------|
| a | メキタジン | — | 発熱を鎮める |
| b | 塩酸メチルエフェドリン | — | 気管・気管支を広げる |
| c | 塩酸ブロムヘキシン | — | くしゃみや鼻汁を抑える |
| d | セネガ | — | 痰の切れを良くする |

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問22 ステロイド性抗炎症成分に関する次の記述について、() の
中に入れるべき最も適切な字句を下欄から選びなさい。

外用の場合はいずれも末梢組織（患部局所）におけるプロスタグランジンなどの炎症を引き起こす物質の産生を抑える作用を示し、特に、痒みや発赤などの皮膚症状を抑えることを目的として用いられる。ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL中（ ）を越えて含有する製品では、特に長期連用を避ける必要があり、まとめ買いや頻回に購入する購入者に対して、注意を促していくことが重要である。

下欄

- 1 0.0025 mg 2 0.025 mg 3 0.25 mg
4 0.0025 g 5 0.025 g

問23 鎮うん薬（乗物酔い防止薬）に含まれる次の成分のうち、8歳の小児に適用がないものを1つ選びなさい。

- | | | | |
|---|----------------|---|-------------|
| 1 | 塩酸メクリジン | 2 | テオクル酸プロメタジン |
| 3 | ブロムワレリル尿素 | 4 | 臭化水素酸スコポラミン |
| 5 | マレイン酸クロルフェニラミン | | |

問24 サリチル酸系解熱鎮痛成分に関する次の記述について、()
の中に入れるべき字句の組み合わせを下欄から選びなさい。なお、3つ
の(a)には同じ字句が入ります。

(a)は、血液を凝固しにくくさせる作用があるため、胎児や出
産への影響を考慮して、出産予定日12週間以内の服用を避ける必要が
ある。なお、(a)は医療用医薬品では、血栓ができやすい人に対す
る血栓予防薬の成分としても用いられている。

サリチル酸系解熱鎮痛成分は、ライ症候群の発生との関連性が示唆さ
れているため、(a)と(b)は、一般用医薬品では15歳未満
に対してはいかなる場合も使用しないこととなっている。また、
(c)では、15歳未満で水痘(水疱瘡)又はインフルエンザに
かかっているときは使用を避ける必要がある。

下欄	a	b	c
1	アスピリン	エテンザミド	サザピリン
2	サザピリン	アスピリン	エテンザミド
3	アスピリン	サザピリン	エテンザミド
4	サザピリン	エテンザミド	アスピリン
5	エテンザミド	サザピリン	アスピリン

問25 解熱鎮痛薬として用いられる次の記述の成分を下欄から1つ選びな
さい。

アスピリン等に比べて胃腸への影響が少なく、抗炎症作用も示すこと
から、頭痛、咽頭痛、月経痛(生理痛)、腰痛等に使用されることが多
い。一般用医薬品では小児向けの製品はない。体内でのプロスタグラ
ンジンの産生を抑える作用により、消化管粘膜の防御機能が低下するた
め、消化管に広く炎症を生じる疾患である胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大
腸炎又はクローン病の既往歴がある人では、それら疾患の再発を招くお
それがある。

下欄	1	2
	アセトアミノフェン	イブプロフェン
	アリルイソプロピルアセチル尿素	
	イソプロピルアンチピリン	サリチルアミド

問26 下表は、ある眠気防止薬に含まれている成分の一覧である。

1 包中		
無水カフェイン	200mg	
ピリドキシリン塩酸塩（塩酸ピリドキシリン）	10mg	
シアノコバラミン	10mg	

この眠気防止薬を使用するにあたって注意すべき事項に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a カフェインは胃液の分泌を抑制する作用があり、副作用として食欲不振、悪心・嘔吐の胃腸障害が現れることがある。
- b 心臓病の診断を受けた人は、服用を避ける必要がある。
- c 眠気による倦怠感を防ぐ成分として、ビタミンB成分が含まれているため、尿が黄色くなることがある。
- d 15歳未満に使用されることのないよう注意すること。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (c、d) 4 (b、d)

問27 胃腸薬に含まれる成分とその成分により起こることがある副作用の組み合わせで誤っているものを1つ選びなさい。

- | | | |
|---------------|---|----------------|
| 1 塩酸ロペラミド | — | 便秘 |
| 2 臭化ブチルスコポラミン | — | ショック（アナフィラキシー） |
| 3 マレイン酸トリメブチン | — | イレウス様症状 |
| 4 オキセサゼイン | — | めまい |
| 5 テプレノン | — | 皮下出血 |

問28 口腔咽喉薬、うがい薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ヨウ素系殺菌消毒成分は、バセドウ病などの甲状腺疾患の診断を受けた人では、その治療に悪影響を生じるおそれがあるため、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談すること。
- b トラネキサム酸は、体内での炎症物質の産生を抑えることで炎症の発生を抑え、のどの腫れを和らげるが、血液凝固異常（出血傾向）の症状がある人では、出血傾向を悪化させるおそれがあるので、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談すること。
- c チモールは、細菌や真菌類の蛋白質を変性させることにより殺菌消毒作用を示し、患部の化膿を防ぐことを目的として用いられる。
- d 塩化ベンゼトニウムは、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌又はカンジダ等の真菌類に対する殺菌消毒作用を示し、ウイルスにも効果がある。

下欄	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問29 下表は、ある胃腸薬に含まれている成分の一覧である。

1日3包中	
ピレンゼピン塩酸塩水和物(塩酸ピレンゼピン)	47.1mg
炭酸水素ナトリウム	1200mg
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	900mg
ビオジアスターゼ2000	30mg

この胃腸薬を使用するにあたって注意すべき事項に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 透析療法を受けている人でも使用を避ける必要がない。
- b 胃腸鎮痛鎮痙薬、乗物酔い防止薬との併用はしないこと。
- c 長期連用は避けること。
- d 緑内障の診断を受けた人は、治療を行っている医師等に相談すること。

下欄	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	誤

問30 泌尿器用薬に含まれる成分、漢方処方製剤に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 ウワウルシはツツジ科のクマコケモモの葉であり、日本薬局方収載のウワウルシは、煎薬として残尿感、排尿に際して不快感のあるものに用いられる。
- 2 カゴソウはシソ科のウツボグサの花穂であり、日本薬局方収載のカゴソウは煎薬として残尿感、排尿に際して不快感のあるものに用いられる。
- 3 竜胆瀉肝湯は、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- 4 八味地黄丸の服用で、ときに、重篤な副作用として間質性肺炎を生じることがある。

問31 下表の成分を含む瀉下薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

4錠中

ダイオウエキス 405.8mg

カンゾウエキス末 67mg

ジオクチルソジウムスルホサクシネート 24mg

- 1 便秘は、食生活等の生活習慣の改善が図られることが重要であり、瀉下薬の使用は一時的なものにとどめることが望ましい。
- 2 ジオクチルソジウムスルホサクシネートは、腸内容物に水分が浸透しやすくする作用があり、糞便中の水分量を増して柔らかくすることにより、排便を促す。
- 3 カンゾウは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促す。
- 4 ダイオウは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行し、乳児に下痢を生じるおそれがあり、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要がある。

問32 歯槽膿漏薬の配合成分と配合目的の正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
| a | イソプロピルメチルフェノール | — | 殺菌消毒成分 |
| b | グリチルレチン酸 | — | 抗炎症成分 |
| c | カルバゾクロム | — | 組織修復成分 |
| d | アラントイン | — | 止血成分 |

下欄

- 1 (a、b) 2 (b、d) 3 (a、c) 4 (c、d)

問33 浣腸薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a グリセリンが配合された浣腸薬は、肛門等の粘膜に損傷があり出血している時に使用すると、グリセリンが傷口から血管内に入って、赤血球の破壊を引き起こし、また、腎不全を起こすおそれがあり、痔出血の症状がある人では、使用する前に、治療を行っている医師等に相談すること。
- b 浣腸薬を繰り返し使用しても、直腸の感受性は変わらず、一定の効果が得られる。
- c 浣腸薬は一般に、直腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けることが望ましい。
- d 浣腸薬の半量等を使用する用法がある場合、残量は再利用してもかまわないが、保管は冷暗所で行うこと。

下欄

- 1 (a、b) 2 (b、d) 3 (a、c) 4 (c、d)

問34 毛髪用薬の成分に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 塩化カルプロニウムは、末梢組織（適用局所）においてアドレナリンに類似した作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- 2 カシュウは、タデ科ツルドクダミの塊根を用いた生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。
- 3 安息香酸エストラジオールは、女性ホルモン成分の一種であり、脱毛抑制効果を期待して配合されている。
- 4 チクセツニンジン（チクセツニンジン）は、ウコギ科トチバニンジンの根を用いた生薬で、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

問35 健康診断で中性脂肪、コレステロールが高かったため、30歳の女性が、パンテチン、酢酸トコフェロールを含む高コレステロール改善薬を購入した。

この薬を使用するにあたって注意すべき事項に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 高コレステロール改善薬の使用は、食事療法、運動療法の補助的な位置づけであるため、糖質や脂質を多く含む食品の過度の摂取を控える、適度な運動を取り入れる等生活習慣の改善を行なうことが重要である。
- b パンテチンにより、便秘の副作用が現れることがある。
- c 酢酸トコフェロールの作用により、生理（月経）が遅れたり、経血量が多くなったりすることがある。
- d 1～3ヶ月程度、高コレステロール改善薬の使用を続けても、検査値に改善がみられない時には、遺伝的又は内分泌的要因も疑われるため、いったん使用を中止して医師の診療を受けることが望ましい。

下欄

- 1 (a、d) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d)

問36 次の外用剤に用いられる成分のうち、筋肉痛、関節痛、打撲、捻挫による鎮痛を目的として用いられるものを1つ選びなさい。

- 1 ヒドロコルチゾン 2 ブフェキサマク 3 ウフェナマート
4 ピロキシリン 5 ピロキシカム

問 37 催眠鎮静薬、鎮うん薬（乗物酔い防止薬）に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a アミノ安息香酸エチルが配合されている場合は、乳幼児ではメトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満への使用は避ける必要がある。
- b カフェインやジプロフィリンなどのキサンチン系と呼ばれる成分は、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として配合されている場合がある。副作用として動悸が起きることがある。
- c 臭化水素酸スコポラミンは、消化管からよく吸収され、他の抗コリン成分と比べて脳内に移行しやすいため、抗ヒスタミン成分等と比べて作用の持続時間が長い。副作用として、動悸、排尿困難が起きることがある。
- d ブロムワレリル尿素は、胎児障害の可能性があるので、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問38 鎮咳去痰薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 塩酸メチルエフェドリンについては、中枢神経系に対する作用が強いとされ、依存性がある成分であることに留意する必要がある。
- b リン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデインは、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれ、長期連用や大量摂取によって倦怠感や虚脱感、多幸感等が現れることがあり、薬物依存につながるおそれがある。
- c 咳を抑えることを目的とする成分のうち、延髄の咳嗽中枢に作用するものとして、ノスカピン、グアイフェネシンがある。
- d 塩酸エチルシステインは、痰の中の粘性蛋白質に作用してその粘りけを減少させることにより、痰の切れを良くする。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	正

問39 循環器用薬に含まれる成分に関する次の記述について、()
の中に入れるべき字句の組み合わせを下欄から選びなさい。

(a) は、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際に (b) とともに働く。別名コエンザイムQ10とも呼ばれ、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示す。

この成分の服用により、副作用として、胃部不快感、食欲減退、吐き気、(c)、発疹・痒みが現れることがある。

下欄	a	b	c
1	ヘプロニカート	ビタミンB群	便秘
2	ユビデカレノン	ビタミンB群	下痢
3	ヘプロニカート	ビタミンC	便秘
4	ユビデカレノン	ビタミンB群	便秘
5	ユビデカレノン	ビタミンC	下痢

問40 次の記述の漢方処方製剤を下欄から1つ選びなさい。

鼻づまり（鼻閉）、蓄膿症、慢性鼻炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

生薬成分としてカンゾウ、マオウを含む。

下欄					
1	葛根湯加川芎辛夷	2	十味敗毒湯	3	消風散
4	荊芥連翹湯	5	辛夷清肺湯		

問41 殺虫剤に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

有機リン系殺虫剤の殺虫作用は、(a)を分解する酵素と不可逆的に結合してその働きを阻害することによるもので、ほ乳類や鳥類では速やかに分解されて排泄されるため毒性は比較的低い。ただし、誤って飲み込んでしまった場合には、神経の異常な興奮が起こり、(b)、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。これらの症状が見られたときは、直ちに医師の診断を受ける必要がある。

有機リン系殺虫成分として、(c)などがある。

下欄	a	b	c
1	アセチルコリン	縮瞳	ペルメトリン
2	セロトニン	散瞳	ダイアジノン
3	セロトニン	縮瞳	ジクロロボス
4	アセチルコリン	散瞳	メトキサジアゾン
5	アセチルコリン	縮瞳	フェニトロチオン

問42 下表は、ある貼付剤に含まれている成分の一覧である。

膏体 100g中
インドメタシン 0.375g

この貼付剤を使用するにあたって注意すべき事項の説明として誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 皮膚の弱い人は、使用前に腕の内側の皮膚の薄い箇所に、1～2cm角の小片を目安として半日以上貼り、発疹・発赤、かゆみ、かぶれ等の症状が起きないことを確かめてから使用すること。
- 2 11歳未満の小児には使用しないこと。
- 3 光線過敏症の副作用を生じることがあり、野外活動が多い人では、他の成分が配合された製品を使用することが望ましい。
- 4 ぜんそくを起こしたことがある人は使用を避けること。

問43 眼科用薬に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。なお、2ヶ所の(a)、(b)内は、同一の字句が入ります。

自律神経系の伝達物質であるアセチルコリンは、水晶体の周りを囲んでいる(a)に作用して、目の調節機能に関与している。目を酷使すると、アセチルコリンを分解する酵素(b)の働きが活発になり、目の調節機能が低下し、目の疲れやかすみといった症状を生じる。メチル硫酸ネオスチグミンは、(b)の働きを抑える作用を示し、(a)におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果をも目的として用いられる。

下欄	a	b
1	角膜	コリンエステラーゼ
2	毛様体	コリンアセチラーゼ
3	硝子体	コリンアセチラーゼ
4	毛様体	コリンエステラーゼ
5	硝子体	コリンエステラーゼ

問44 次の記述の殺菌消毒薬を下欄から1つ選びなさい。

黄色の色素で、一般細菌類の一部（連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌）に対する殺菌消毒作用を示すが、真菌、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。比較的刺激性が低く、創傷患部にしみにくい。衣類等に付着すると黄色く着色し、脱色しにくくなることがある。

下欄

1	オキシドール	2	ポビドンヨード	3	ヨードチンキ
4	アクリノール	5	マーキュロクロム		

問45 下表の成分を含むアレルギー用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

1日4カプセル中	
塩酸プソイドエフェドリン	120mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩 (マレイン酸クロルフェニラミン)	8mg
無水カフェイン	100mg
サイシン乾燥エキス	40mg
ベラドンナアルカロイド	0.4mg

- a 前立腺肥大による排尿困難の症状がある人では、症状を悪化させるおそれがあり、使用を避けること。
- b パーキンソン病の治療を受けている人で、モノアミン酸化酵素阻害剤を服用している場合は、医師に相談すること。
- c ベラドンナアルカロイドは、ナス科のベラドンナ（別名セイヨウハシリドコロ）の根茎や根に含まれるアルカロイドであり、副交感神経系の働きを抑える作用により、鼻汁分泌やくしゃみを抑える。
- d サイシンはモクレン科のコブシ等の花の蕾を用いた生薬で、鎮静、鎮痛、抗炎症等の作用を期待して用いられる。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	正

問46 胃腸に作用する薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 乾燥水酸化アルミニウムゲルを主体とする胃腸薬は、中和反応によって胃酸の働きを弱めることを目的としているため、炭酸飲料等で服用するとより効果的である。
- b オウバク、オウレン、センブリ、ゲンチアナ、リュウタンは、甘味による健胃成分である。
- c デヒドロコール酸は、胆汁の分泌を促す作用があり、また、肝臓の働きを高める作用もあるとされるが、肝臓病の診断を受けた人ではかえって症状を悪化させるおそれがある。
- d スクラルファートは胃粘膜保護・修復成分であるが、アルミニウムを含む成分であるため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。

下欄

- 1 (a 、 b) 2 (a 、 d) 3 (b 、 c) 4 (c 、 d)

問47 貧血用薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 鉄製剤を服用後便が黒くなった場合は、消化管内で出血しているためであり、直ちに使用を中止する必要がある。
- b コバルトは赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- c 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するためには、食後に服用することが望ましい。
- d 鉄分の摂取不足による鉄欠乏性貧血を防ぐためには、貧血の症状がみられる以前から予防的に鉄製剤を使用することが適当である。

下欄

- 1 (a 、 b) 2 (a 、 d) 3 (b 、 c) 4 (c 、 d)

問48 眼科用薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 点眼薬は、通常、無菌的に製造されているため、別の人との共用も何ら支障がない。
- b コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されてない限り行わないことが望ましい。
- c 点眼薬の1滴の薬液量は、結膜囊の容積より小さいため、一度に何滴も点眼すると効果的である。
- d 点眼薬の副作用として、目の充血や痒み、腫れがあらわれることがあり、その副作用が点眼薬の適応症状と区別することが難しい場合があるため、一定期間使用して改善が見られない場合には漫然と使用を継続せずに、専門家に相談すること。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問49 生薬成分に関する次の記述について、記述と成分の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a キンポウゲ科のハナトリカブトの塊根であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用をもつ。そのままでは毒性が高いことから、その毒性を減らし有用な作用を保持する処理を施したものが使用される。
- b マメ科のクズの根を用いた生薬で、解熱、鎮痙等の作用を期待して用いられる。
- c サルノコシカケ科のマツホドの菌核を用いた生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- d バラ科のヤマザクラ又はその同属植物の樹皮を用いた生薬で、去痰作用を期待して用いられる。

下欄

- | | a | b | c | d |
|---|------|-------|-------|-----|
| 1 | ブシ | レンギョウ | ロクジョウ | オウヒ |
| 2 | ショウマ | カッコン | ロクジョウ | ゴミシ |
| 3 | ブシ | カッコン | ブクリョウ | オウヒ |
| 4 | ショウマ | レンギョウ | ブクリョウ | ゴミシ |

問50 皮膚に用いる薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 外皮用薬を使用する際には、適用する皮膚表面に汚れや皮脂が多く付着していると有効成分の浸透性が低下するため、適用部位に多量に使用することが重要である。
- b 塗り薬では、薬剤を容器から直接指に取り、患部に塗布したあと、また指に取ることを繰り返すと、容器内に雑菌が混入するおそれがあるため、いったん手の甲などに必要量を取ってから患部に塗布することが望ましい。
- c 外皮用薬で用いられるステロイド性抗炎症成分は、一時的な皮膚症状（ほてり・腫れ・痒み等）の緩和を目的とするとともに、慢性の湿疹・皮膚炎をも対象としている。
- d サリチル酸メチル、サリチル酸グリコールは、主として局所刺激により患部の血行を促し、また、末梢の知覚神経に軽い麻痺を起こすことにより、鎮痛作用をもたらすと考えられている。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問51 消毒薬に関する次の記述について、記述と成分の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。手指・皮膚の消毒のほか、器具等の殺菌・消毒にも用いられるが、原液は、刺激性が強いため、直接皮膚に付着しないようにする必要がある。
- b 微生物の蛋白質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。脱脂による肌荒れを起こしやすく、皮膚へ繰り返して使用する場合には適さない。手指・皮膚の消毒のほか、器具等の殺菌・消毒にも用いられる。
- c 強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示すが、皮膚刺激性が強いため、人体の消毒には用いられない。金属腐食性があり、プラスチックやゴム製品を劣化させる。
- d 刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

下欄	a	b	c	d
1	イソプロパノール	グルコン酸 クロルヘキシジン	クレゾール 石鹼液	塩酸ポリアルキル ポリアミノエチル グリシン
2	クレゾール 石鹼液	エタノール	次亜塩素酸 ナトリウム	ジクロロイソシア ヌル酸ナトリウム
3	クレゾール 石鹼液	グルコン酸 クロルヘキシジン	次亜塩素酸 ナトリウム	塩酸ポリアルキル ポリアミノエチル グリシン
4	イソプロパノール	エタノール	クレゾール 石鹼液	ジクロロイソシア ヌル酸ナトリウム

問 52 衛生害虫の防除に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ハエは、赤痢菌、チフス菌、コレラ菌等の病原菌や皮膚疾患、赤痢アメーバ、寄生虫卵、ポリオウイルスの伝播など様々な病原体を媒介する。ハエ防除の基本は、ウジの防除であり、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。
- b 蚊は、日本紅斑熱や発疹チフス等の病原細菌であるリケッチアを媒介する。水のある場所に産卵し、幼虫となって繁殖する。人が蚊に刺される場所と蚊が繁殖する場所が異なるため、種類による生息、発生場所に合わせた防除が必要となる。
- c イエダニの防除には、まず宿主動物であるネズミを駆除することが重要であるが、ネズミを駆除することで、宿主を失ったイエダニが吸血源を求めて散乱するため、併せてイエダニの防除も行われる。
- d 少しでも屋内塵性ダニを確認した場合、直ちに殺虫剤を散布し、散布後、畳、カーペット等を直射日光下に干すなど、生活環境の掃除を十分行うことが基本である。

下欄

- 1 (a 、 b) 2 (a 、 c) 3 (b 、 d) 4 (c 、 d)

問53 内用痔疾用薬に含まれる成分や漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a カイカはマメ科のエンジュの花及び蕾、カイカクはその果実を用いた生薬で、いずれも血行促進、抗炎症作用を期待して用いられる。
- b セイヨウトチノミはトチノキ科のセイヨウトチノキ（別名マロニエ）の種子を用いた生薬で、止血効果を期待して用いられる。
- c コハク酸トコフェロールは、肛門周囲の末梢血管の血行を促して、鬱血を改善する効果を期待して用いられる。
- d 芎帰膠艾湯は、痔出血の症状に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問54 強心薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
- b ゴオウは、ウシ科のウシの尿路中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- c リュウノウは、フタバガキ科のリュウノウジュの樹幹の空隙に析出する精油の結晶を用いた生薬で、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。
- d 一般用医薬品にも副作用として動悸が現れることがあり、副作用による症状と認識されず強心薬を服用しようとすることもあり得るため、強心薬を使用しようとする人における状況の把握に努めることが重要である。

下欄	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問55 外用痔疾用薬に含まれる成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 痛み・痒みを和らげることを目的として塩酸リドカイン、アミノ安息香酸エチル、塩酸ジブカイン等の局所麻酔成分が用いられるが、局所に使用されるため、ショック（アナフィラキシー）など重篤な副作用がでることはない。
- b 痔による肛門部の炎症や痒みを和らげる成分として、酢酸ヒドロコルチゾンが配合されている場合は、長期連用を避ける必要がある。
- c 血管収縮作用による止血効果を期待して配合されている塩酸ナファゾリンは、目の充血を除去する目的で眼科用薬にも使用される。
- d 痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として、塩化ベンザルコニウムが配合されている場合があるが、この成分は、陰性界面活性成分であり、傷口の殺菌消毒薬としても使用され、石けんと混合しても殺菌消毒効果は低下しない。

下欄 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問56 婦人用薬に配合される女性ホルモン成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける必要がある。
- b 女性ホルモン成分の摂取によって、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することがあり、母乳を与える女性は使用を避けることが望ましい。
- c 長期連用により、出血傾向となるおそれがある。
- d 長期連用により、乳癌や脳卒中などの発生確率が高まる可能性もあるため、定期的な検診を受けることが望ましい。

下欄	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

問57 婦人用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 内服で用いられる婦人用薬は、比較的作用が穏やかな生薬成分が配合されている場合が多く、その他の生薬成分を含有する医薬品（鎮静薬、胃腸薬、内用痔疾用薬等）が併用された場合でも副作用が起こることはない。
- b 桃核承気湯では、1日最大服用量としてカンゾウ（原生薬換算）1g以上を含有する製品については、むくみのある人、心臓病、腎臓病又は高血圧の診断を受けた人は、使用前に、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談すること。
- c 当帰芍薬散は、胃腸鎮痛鎮痙作用のあるシャクヤクが含まれるため、胃腸の弱い人に適しており、胃部不快感等の副作用が現れにくい。
- d 五積散は、マオウを含有するため、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では、使用前に、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談すること。

下欄	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問58 次の漢方処方製剤とその服用により起こることがある副作用の組み合わせで誤っているものを1つ選びなさい。

- | | | | |
|---|-------|---|-----------|
| 1 | 小柴胡湯 | — | 偽アルドステロン症 |
| 2 | 麦門冬湯 | — | 間質性肺炎 |
| 3 | 柴胡桂枝湯 | — | 頻尿 |
| 4 | 乙字湯 | — | 便秘 |
| 5 | 麻黄湯 | — | 発汗過多 |

問59 禁煙補助剤（咀嚼剤）の使用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 咀嚼剤は、噛むことにより口腔内でニコチンが放出され、口腔粘膜から吸収されて循環血液中に移行するため、ガムのように噛むことにより、唾液が多く分泌されると吸収が抑えられ、吐き気や腹痛等の副作用が現れにくくなる。
- b 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けること。
- c ニコチンがインスリンの効果を増強するおそれがあるため、糖尿病でインスリン製剤を使用している人は、使用前に治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談すること。
- d 非喫煙者では、一般にニコチンに対する耐性がないため、吐き気、めまい、腹痛などの症状が現れやすく、誤って使用されることのないよう留意すること。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問60 滋養強壯保健薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ビタミンA主薬製剤は、酢酸レチノール、パルミチン酸レチノール、肝油等が主薬として配合された製剤で、夜盲症（とり目）の症状の緩和、病中病後の体力低下時のビタミンAの補給に用いられる。
- b ビタミンD主薬製剤は、エルゴカルシフェロール又はコレカルシフェロールが主薬として配合された製剤で、骨歯の発育不良、くる病の予防に用いられる。
- c ビタミンB₂主薬製剤は、塩酸チアミン、硝酸ビスチアミン、塩酸フルスルチアミン等が主薬として配合された製剤で、神経痛、筋肉痛、関節痛、手足のしびれ、便秘、眼精疲労に用いられる。
- d ビタミンB₁主薬製剤は、酪酸リボフラビン、フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム等が主薬として配合された製剤で口角炎、口唇炎、口内炎、舌炎、湿疹、皮膚炎、かぶれ、ただれ、にきび、肌荒れに用いられる。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)